

## 2 環境学習

県民一人ひとりが環境を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要であるという考えのもと、環境保全の実践に結びつくものとするため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。平成29年度の環境学習の取組については、以下のとおりである。

### 2.1 彩の国環境大学

県では、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。今年度も、環境に関する広範囲かつ専門的な知識の習得を目的として基礎課程、実践課程を開講した。

開講期間：8月26日～11月23日。各課程全10回。受講者：55人。修了者：45人。

#### 開講式公開講座

開催日	講義名	講師名
8月26日	「古くて新しい光化学スモッグ －原因、発生機構、新たな対策－」	埼玉県環境科学国際センター 総長 島山史郎

#### 閉講式公開講座

開催日	講義名	講師名
11月23日	「パリ協定から始まる“脱”炭素化時代 －地域の役割は？－」	世界自然保護基金ジャパン (WWFジャパン) 気候変動・エネルギーグループ長 山岸尚之



開講式



閉校式公開講座

#### 基礎課程

開催日	講義名	講師名
10月7日	環境法学 法は環境保全に役立ってきたか －道具としての環境法－	東京経済大学 名誉教授 礒野弥生
10月7日	地球環境 埼玉県の温暖化の実態とその影響 －温暖化の生物・農業・健康への影響－	埼玉県環境科学国際センター 副室長 嶋田知英
10月14日	環境経済学 経済学が環境を守るためにできること	東京経済大学 准教授 野田浩二

開催日	講義名	講師名
10月14日	埼玉の環境 埼玉県の環境の現状と今後の目指す姿 －環境保全・創造の取組－	埼玉県環境部環境政策課 主任 伊原洋輔
10月21日	水環境 地形が織り成す多様な水環境 －埼玉県の特性「西高東低」は水環境にどのような影響を与えるか－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 田中仁志
10月21日	大気環境 空气中を浮遊する微小粒子PM2.5 －その実態と発生源に迫る－	埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 米持真一
10月28日	廃棄物管理 現代と江戸のごみを考えてみよう －循環型社会の構築－	日本工業大学 元教授 小野雄策
10月28日	化学物質 化学物質と私たちの暮らし －生活における化学物質のメリットとデメリット－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 茂木 守
11月 4日	地球環境・国際支援 情けは人のためならず －環境を地球規模で考える重要性について－	独立行政法人国際協力機構(JICA) 地球環境部森林・自然環境グループ 鈴木和信
11月 4日	自然環境 生物多様性を考える －今、埼玉県では何が起きているのか？－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 三輪 誠

#### 実践課程

開催日	講義名	講師名
9月 2日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげひろげるコーディネーターの役割	(NPO)エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良
9月 9日	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川達己
9月17日	環境学習の現状と課題 環境学習の今後の取り組み	立教大学社会学部 教授 同ESD研究所 所長 阿部 治
9月23日	生物多様性とは何か 自然のしくみを知る(実地演習)	埼玉県自然学習センター 自然学習指導員 高野 徹
9月30日	事例研究① ときがわ町の身近な自然を活かした活動について	もりんど 会長 山本悦男
9月30日	事例研究② 綾瀬川ワースト脱却への取組み －決め手は浄化槽の保守・点検－	埼玉県河川環境団体連絡協議会 代表 浄化槽フォーラム埼玉 代表 大石昌男

#### 2.2 公開講座

彩の国環境大学修了者フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ等	参加者
① 彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学修了者の支援を行うため開催している。	1月27日	講演「埼玉県における気候変動とその対策について」 埼玉県環境科学国際センター 温暖化対策担当 主任 原 政之 活動事例発表「食品ロスについて」 彩の国環境大学修了生の会 鈴木純二	39人
② 生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	4月30日 5月 4日 7月29日 8月 5日 11月14日 12月10日 2月18日 3月 4日	見てみよう感じてみよう 春の生態園 ネイチャーゲームで遊ぼう 昆虫の標本を作ろう 竹で工作しよう ～うぐいす笛～ 見てみよう感じてみよう 秋の生態園 実りのリースを作ろう 冬のバードウォッチングを楽しもう 絶滅危惧種を守ろう ～絶滅危惧植物「サワトラノオ」の植え替え体験～	87人 72人 38人 81人 36人 53人 28人 15人
③ 県民実験教室 簡易な科学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。	4月29日 5月 5日 5月 7日 6月19日 7月17日 7月26日 7月28日 8月 1日 8月 2日 8月 6日 8月 8日 8月 9日 8月11日 9月24日 10月22日 11月14日 11月14日 11月14日 12月10日 12月17日 1月21日 3月25日	作って遊ぼう リモコンロボット 磁石で遊ぼう ～楽しいおもちゃ作り～ サイエンスショー 自由電子が見えたなら 廃油からリサイクル石けんを作ってみよう 大気の性質を調べてみよう 〇〇〇〇ころりんーピコピコカプセルを作って転がしてみようー 土壌の性質を学ぼう 大気汚染を目で見てみよう サイエンスショー 化学反応！ 富士山のとっぺんの空気は何が違う？ 水の性質を調べてみよう 水の性質を調べてみよう 乾電池チェッカーを作ろう 身近な物の中の化学物質を調べてみよう 音と振動のなぞを調べてみよう サイエンスショー 空気ってチカラもち!? サイエンスショー -196℃の世界 自然塩を作ろう 草木染めをしてみよう 廃油からクリスマスアロマキャンドルを作ろう しゅぼしゅぼ 紙コップUFOを作って飛ばそう	140人 141人 165人 45人 41人 58人 40人 43人 245人 75人 66人 34人 119人 25人 20人 313人 429人 56人 47人 44人 57人 57人

(31講座、計2,709人)

### 2.3 身近な環境観察局ネットワーク

環境に関心がある県内の個人や団体に、簡易な環境調査法を学習する機会を設けている。観察局数:60局(平成30年3月31日現在)。

身近な環境観察局では、年間を通じて大気・水質・酸性雨・一般指標生物・ハンノキとミドリシジミの調査を行っている。

平成29年度は新規応募者研修会を3回、大気測定会を5回実施した。また、身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会を実施し、観察局間の交流を図った(2月24日 参加者31人)。

### 2.4 研究施設公開

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日に研究施設の一般公開を行っている。

開催日	内容	参加者
5月7日	普段非公開の研究施設を特別に公開し、研究員が解説や実演を行った。	108人
8月2日		133人
11月14日		744人

(計985人)

### 2.5 その他

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日等に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
①ゴールデンウィーク特別企画	4月29日	・オリエンテーリングクイズ ・サイエンスショー・自然観察会 ・各種環境講座・研究所公開	参加者延 4,743人
	5月7日		
②夏休み特別企画	7月17日	・オリエンテーリングクイズ ・サイエンスショー・リサイクル工作 ・研究所公開・各種環境講座	参加者延 7,335人
	8月27日		
③県民の日特別企画	11月14日	・サイエンスショー・自然塩作り ・自然観察会・オリエンテーリングクイズ ・研究所公開	参加者延 6,266人
④上映会	4月29日	・ウォーキングwithダイナソー ・ティラノサウルス「最強恐竜 進化の謎」 ・動物の赤ちゃんドキドキ編ほか	参加者延 2,003人
	3月31日		

(計20,347人)